

籍・著作権に関する最新動向ーこれからの東アジアにおけるデジタル文化のためにー」参加レポート」『漢字文献情報処理研究』13, p.148-154, 2012.10

---

## ■ 経済学部資料室に関する 紹介・報道記事

(平成 24 年 1 月～平成 24 年 12 月)

---

### 紹介

①三宮麻衣子「第 17 回ビジネスアーキビスト研修講座受講記録」『企業史料協議会ニューズレター』144, 2012.12

---

### 編集後記

---

本号では、合計 11 本もの研究成果を掲載することができた。まずは、執筆者諸氏に心より御礼申し上げたい。特に本号では当室のスタッフ以外の方の論考が多いので、これらについてその機縁を記して編集後記に代えたいと思う。

今年度、当室では日本学術振興会科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受け、アダム・スミス文庫をはじめとする貴重図書目録データ作成と、デジタル化事業に着手した。ちょうど同じ頃、日本におけるアダム・スミス研究の第一人者である名古屋大学名誉教授・水田洋先生の訪問を受けた。これを機縁に、ご自身の学問的軌跡や当室所蔵のアダム・スミス文庫の紹介を織り交ぜながら、ホップズからアダム・スミスへの思想的継承について論述いただいた。

デジタル化事業ということでは、本学部の教員が長年に亘り尽力してきた営業報告書のデジタル化配信が実現したのも特筆すべきだろ

う。J-DAC という有償のプラットフォームを通じたものではあるが、そこに至るまでには多くの目に見えない努力があったのである。営業報告書に関しては、資料の収集から公開への過程に一区切りがついた今、これをきちんとまとめておくことは意義のあることと判断し、本研究科の武田晴人教授に執筆をお願いした。

「貨幣・紙幣」の特集では、保存科学者の視点からの論考を掲載することができた。彙報にも記したように今年度は山梨県立博物館への出陳協力があり、これを機会に設備の整った同館で上代判金、天正大判、石見銀などを非破壊分析してもらうことにした。沓名貴彦氏の論考はその成果である。

本多俊彦氏の論考は、本多氏が当室所蔵の土屋家旧蔵文書の中に含まれている仙台藩知行宛行状の調査を行ったことから、執筆依頼をし快諾いただいた。仙台藩だけでなく宇和島藩をも絡めて古文書学の観点から分析されている。

今年度、当室のスタッフを中心として科研費・基盤研究(B)を取得した。この科研費による調査が切っ掛けとなったのが笠原健司氏と長谷川由紀子氏の論考である。また大野美紀子氏は昨年まで経済学図書館のスタッフで、今年度から京都大学に赴任されている。

今年度末をもって伊藤正直室長が定年退職される。伊藤室長には当室開室から 3 年間、図書館長兼資料室長として東京大学経済学図書館発展のために尽力いただいた。部下である我々に対しては、厳しいながらも愛情をもって指導いただき、資料の保存について何よりも第一に考えていただいた。

誌面の末尾であるが、伊藤室長に対して心より感謝の意を表すとともに、今後のご活躍を祈念したい。  
(小島浩之)